チベット難民が暮らす
インドのダラムサラを訪ねる
スタディーツアー

難民支援 NGO “Dream for Children”

【日程】

2018 年 8 月 27 日（月），28 日（火）

【内容】

チベット難民が暮らすインドの（アッパー）ダラムサラ（別名：マクロードガンジ）を訪ね、チベット難民が亡命を余儀なくされた理由、亡命後の暮らしについて学びます。

※難民支援 NGO “Dream for Children” 会員の方のみがご参加いただけます。
（これから会員になられる方はご参加いただけます）

※スタディーツアー中は日本語での説明、日本語通訳がつきます。

※日本発着ツアーではなく、現地集合・解散で、現地のご案内をする形になります。

【料金】

・2018 年 8 月時点で会員の方：10,000 円
・2018 年 8 月時点で会員でない方：15,000 円（うち 5,000 円は年会費にあてさせて頂きます。）

[料金に含まれるもの]

スタディーツアー中の交通費、訪問場所訪問代・入場料

※訪問する組織にはあらかじめ謝礼を渡していますが、当日案内を担当してくれた人にはチップをお願いします。

[料金に含まれないもの]

日本からアッパーダラムサラまでの交通費（往復とも）、現地宿泊費、食事代

【申し込み（7 月 31 日まで）】

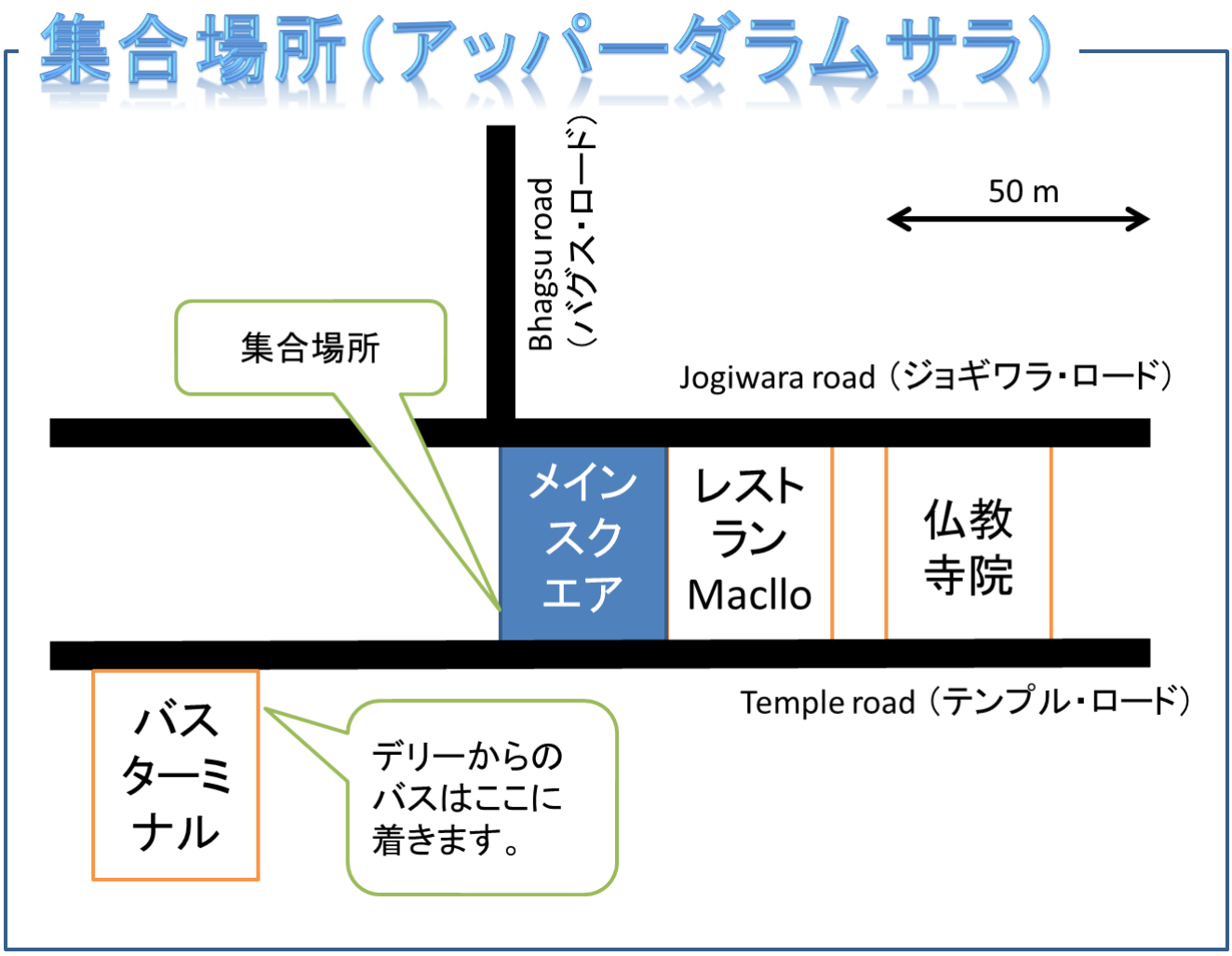
dream.for.children.japan@gmail.com までご連絡ください。

・メール件名
「スタディーツアー参加」
・メール本文
参加者氏名

折り返し入金方法をご連絡しますので、ご入金ください。
※8 月 1 日以降のお申込みは対応できる場合はお受けしますが、お断りする可能性もあります。
※一部の日程のみに参加されたい場合は、ご相談ください。
※お申込みいただいた時点で、本ファイルに記載のすべての内容に同意したものとします。

【集合場所（両日とも）】

インドのアッパーダラムサラ（マクロードガンジ）のメインスクエア（現地集合です）
※両日とも午前 10 時集合



※デリーは詐欺師が多いですが、ダラムサラの人はほぼ信用できます。ダラムサラ到着後、場所がわからなければ、「メインスクエア！」と叫べば、その辺の人が連れて行ってくれると思います。

※日本からアッパーダラムサラまでの移動手段、宿泊先はご自身で確保してください。

【日本からアッパーダラムサラまでの道のり】

まずは、デリーに入ってください。その後、デリーからアッパーダラムサラまでは空路と陸路の 2 通りがあります。

［空路（インド国内線）を利用の場合］

・インド国内線でデリーからダラムサラへ（飛行時間：1 時間 50 分程度）
※Air India, Spice Jet が運航しています。運航がない曜日もあるので注意してください。

・ダラムサラ空港からアッパーダラムサラまでタクシー
タクシーの行先は、Upper Dharamsala （アッパーダラムサラ）もしくは別名の Macleod Ganzi （マクロードガンジ）と告げてください。

［陸路（夜行バス）を利用の場合］

・デリー空港からデリー市街へ移動
インドが初めての方は、デリーの宿を予め予約しておき、送迎を頼むことをお勧めします。
※空港からは地下鉄、タクシー等の移動手段はありますが、騙されて連れ去られる等の事件が発生しており、インドが初めての方にはおすすめしません。

・デリー市街からアッパーダラムサラへ（夜行バスで 12 時間ほど）
宿でバスチケットを取り、バス乗り場まで連れて行ってもらうのがおすすめです。
※チケット購入時に行先が「アッパーダラムサラ」かどうかを確認してください。
「ダラムサラ」と言うとロウアーダラムサラ行のバスになる場合があります。
※最も値段が高いバス（ボルボ）をおすすめします。
最も値段が高いバスが日本の普通のバスと同レベルです。ノーマルバスはインド基準でノーマルであり、日本ではありえない品質のバスになります。
※デリー出発時は暑いですが、ダラムサラに近づくにつれ寒くなりますので、服装にご注意ください。

※インド内の移動が不安な場合、デリーにあるシゲタトラベル（http://www.yokosoindia.com/）に頼むのがおすすめです。シゲタトラベルは日本語が通じる旅行会社です（日本語が通じる分、サービス料が高めです）。日本語が通じなくてもよい場合は、英語が通じる旅行会社がデリーに多数あります。

※インド入国にはビザが必要です（P5 参照）

【詳細スケジュール】

日程	内容
8 月 27 日（月）	午前 10 時　集合 午前 10 時 15 分　メインテンプル チベット仏教の寺院を見学します。 午前 10 時 45 分　チベット博物館 チベット人が亡命を余儀なくされている原因について学びます。 午後 0 時 15 分　チベット女性協会 チベット難民の NGO の活動について学びます。 午後 1 時　昼食 午後 2 時　チベット難民の学校訪問 チベット難民が英語を学ぶクラスを見学します。 午後 4 時　チベット難民のコルラルート （お祈りをしながら歩く道）探索 午後 5 時解散
8 月 28 日（火）	午前 10 時　集合 午前 10 時 30 分　チベット子供村訪問 チベット難民の子供が暮らす学校を訪ねます。 午後 1 時　昼食 午後 2 時　自由行動 前日に訪れたチベット難民の学校を訪ねてもらっても構いません。 午後 4 時　チベット難民の職業訓練所訪問 午後 4 時 30 分　チベット難民へのインタビュー 午後 5 時解散

※荒天、事件が発生した場合は予定を変更する可能性があります。

【携行品】

［必ず必要なもの］

・パスポート

・航空券

・ビザ
日本であらかじめ取得する必要があります。ビザの申請方法は予告なく頻繁に変わるため、インド大使館（https://www.indembassy-tokyo.gov.in/jp/visa_services_jp.html）で最新情報を確認してください。
※ビザ申請にはパスポートと航空券（E チケット）が必要となるため、早めの準備をおすすめします。
※ビザの申請手続きが面倒な方は、ビザ取得を代行してくれる旅行業者もあります。
（東日本在住の方は、どんぐりツアー（http://www.donguri-tour.co.jp/）がおすすめです。）

［あった方がよいもの］

・衣類（夏服と冬服）
デリーは暑いですが、ダラムサラは寒いです。

・電源変換プラグ
日本のコンセントがそのまま使える場所もたまにありますが、使えない場所の方が多いです。インドの電源プラグは、B3、BF、B、C タイプが主流です。特に C タイプが多く、C タイプ用の変換プラグで概ね大丈夫だと思いますが、不安な方は全プラグ対応の変換プラグをおすすめします。

・懐中電灯
ダラムサラは停電が多く、停電の夜はかなり暗くなります。

海外旅行保険に入っておくことを強くおすすめします。

【インド旅行の注意点】

［通貨］

・インドルピーです。日本円からでも両替できます。
・レートは、デリー市街がよいです。空港のレートは非常に悪いです。
・買い物で店側がお釣りを持っていない場合、お釣りが返ってこない可能性があります。
なるべく小銭を持っておきましょう。
・破れたお札は受け取ってもらえません。両替時に破れたお札がないか、確認しましょう。

［クレジットカード］

大きな店では使えます。VISA の通用度が高いです。クレジットカード詐欺もあるので、店員が不審な動きをしていないか注意しましょう。

［水］

インドの水道水は非常に汚く、飲むと病気になります。ペットボトルの水を買ってください。
空のペットボトルに水道水を入れて売っている場合があるので、キャップを開けた形跡がないかよく確認しましょう。
※レストランの生野菜なども水で洗っているので、お腹が弱い人は危険です。

［狂犬病］

犬にかまれたらすぐに病院へ行ってください。狂犬病になる可能性があります。

［その他のよくあるトラブル］

・デリーでは、空港からタクシーに乗って連れ去られる事件がよく起きます。旅慣れていないことを運転手に悟られると、カモになりやすいです。インドが初めての方でデリー市街に向かう方は、宿に送迎を頼むことをお勧めします。
・ニューデリーは地下鉄出口からの移動が難しく、道を聞くと、違う場所に連れていかれる可能性があります。
・タクシー、リクシャー（3 輪タクシー）の値段は交渉制です。インド人の値段で乗るのはほぼ不可能ですが、高すぎると感じる場合は交渉しましょう。
・タクシー、リクシャーは目的地についていないのに、「着いた」と言い張る場合があります。降りる前に本当に目的地に着いたかよく確認しましょう。
・長距離バス、電車で、ペットボトルに睡眠薬を入れられ、気が付くと身ぐるみをはがれる事件が多発しています。ペットボトルの口は他人の手が届かないようにしましょう。
・「日本語を勉強している」などと話しかけてくる人は、99%下心ありです。仲良くなって一緒に行動すると、睡眠薬をもられる、所持品を取られて高速で走り去られるなどの被害に遭います。
・駅周辺で偽物の警察が「切符を見せろ」、「今日は電車は動いていない」などと言ってくる場合がありますが、無視しましょう。話に付き合うと、旅行会社の人間が現れ、鉄道を使わないツアーに引き込もうとします。切符のチェックは電車に乗ってからですので、駅に入る前に切符を確認することはありえません。偽物の警察と旅行会社はグルです。

【スタディーツアーの注意点】

・天候、事件の発生などにより、スケジュールが変更になる場合がありますが、返金はいたしません（行けない訪問先が出た場合、極力他の見どころをご案内します）。

・スタディーツアー中に参加者が被った損害については一切責任を負いません。海外旅行保険への加入を強くおすすめします。

・キャンセルの場合、以下の通りキャンセル料を申し受けます。

キャンセル日	キャンセル料
7 月 26 日まで	なし
7 月 27 日～8 月 24 日	料金の 20 ％
8 月 25，26 日	料金の 50 ％
8 月 27 日、連絡なしの不参加	料金の 100 ％

※日本時間午後 5 時以降のキャンセルの場合、キャンセル日は翌日扱いとなります。
※ご入金いただいた額から、上記キャンセル料とこちらからの振込手数料を差し引いた額をお返しします（返金は 9 月半ばとなります。）。